

日本海ブロックにおける特筆すべき情報(府県水産試験場等)

機関名: (地独)青森県産業技術センター水産総合研究所

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成21年 10月～12 月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 秋田県農林水産技術センター水産振興センター

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成21年 10月～12 月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 山形県水産試験場

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成21年 10月～12 月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 新潟県水産海洋研究所

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成21年 10月～12 月	○両津湾大型定置網の寒ブリ不漁 11月は平年並みであったが、主漁期の 12月は大ブリ(7キロ以上)の漁獲量は29 トン(平年比17%)。	○加茂湖でヘテロカプサ赤潮が発生し、養 殖に被害 10月中旬から12月にかけて、加茂湖(佐 渡市)の全域において、ヘテロカプサ・ サーキュリスカーマによる赤潮が発生 し、養殖マガキが大量に斃死した。10月8 日に通過した台風18号による大時化が きっかけと推定され、調査したなかでの 最高密度は約9,000細胞/ml(11月3日)で あった。 ○大型クラゲの来遊 10月下旬以降12月上旬まで大量に出現 して操業に大きな支障を与えた。	特になし	特になし

機関名: 富山県農林水産総合技術センター水産研究所

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成21年 10月～12 月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 石川県水産総合センター

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成21年 10月～12 月	マダラの漁獲量が県主要10港の10～12 月計で301トンと1995年以降では最高であ り、過去10年平均比で286%である。定 置網、刺し網、底曳網、釣りともに好漁で あった。	なし	近年サケ回帰親魚の小型化と高齢化が 報告されている中、平成21年10月～12月 に手取川で採捕したサケに2歳魚が744 尾(過去(1978～)最多)と多く見られた。 この2歳魚は平成19年度放流群で、放流 尾数は319万尾である。過去の2歳魚の 平均採捕尾数(306尾)の2.4倍、同平均 河川回帰率(0.0047%)の5倍であることか ら、次年度以降の回帰が注目される。	なし

機関名: 福井県水産試験場

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成21年 10月～12 月	大型クラゲは10月に入っても定置網に数 千～1万個体を越える入網がみられ、同 様の状態が12月中旬までみられた。 カワハギ類は2000～2008年平均の約2 倍の約109tの漁獲量で2005年と同様で あった。	特になし	特になし	特になし

機関名: 京都府農林水産技術センター海洋センター

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成21年 10月～12 月	特になし	◎12/23、宮津市の大型定置網にリュウ グウノツカイ(全長約4m)が入網した。 (その後も年末年始にかけて宮津市の大 型定置網にたびたび入網(1/4には、当 センター斜路に1個体(全長2.55m)が漂 着。)	特になし	◎11月例年になく時化模様が続く(漁業 者談)、特に11/11～16に2回、低気圧の 通過に伴う急潮(新井崎漁場10m深で0.9 ノット)並びに波浪(経ヶ岬沖有義波高6m 超)、大型クラゲの大量来遊(10月下旬 のピーク時入網数:12千個/1日・1漁 場、11月上旬:900個)が重なって、大型 定置網の破網、ワイヤー切断事故等が 発生した(9漁場/全32漁場)。

機関名： 兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成21年 10月～12 月	特になし	大型クラゲは、定置網では、10月中旬以降、1日あたりの入網個体数が1000のオーダーに達し(最大約4000個体)、その後12月まで同様の状態が継続した。沖合底びき網では、11月から12月にかけて1曳網あたり40～100個体の入網がみられた。 大型クラゲにより網内で圧迫死するズワイガニが認められた。	特になし	特になし

機関名： 鳥取県水産試験場

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成21年 10月～12 月	・スルメイカの南下期となったが、水揚量は10～12月集計で72トン、前年344トンの21%、過去5年平均1,339トンの5%と大きく減少した。 ・サワラの来遊時期が1ヶ月程度遅れており、9～11月にかけて殆ど漁獲が無く、12月に入ってからまとまってとれ始めた。 ・11月に中海で大型のサワラ(全長1m位)が1尾漁獲された。中海で大型サワラの漁獲は初めて(漁業者談)。 ・ウマヅラハギねらいで、刺網での漁獲がはじめてあった(夏泊、酒津)。	・沿岸部の定置水温は夏場は低めで推移したが平年並みとなった。 ・大型クラゲは依然として出現しており、過去最高レベルの出現量となっている。	・ワカメ種苗の沖だし養殖開始時期が1ヶ月程度遅れた。	なし

機関名： 島根県水産技術センター

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成21年 10月～12 月	●(10月)沖合底引き網において、イボダイが、平年に比較して、5.5倍の漁獲があった。石見地区の定置網では、マアジが平年の1/5、サバ類が平年の1/10であった。 ●(11月)浜田地区の中型まき網はのサバ類の漁獲量は、平年の1/5であった。浦郷地区の中型まき網のブリ漁獲量は、平年の9.7倍であった。出雲地区の定置網のサバ漁獲量は、平年の9倍であった。 ●(12月)西郷地区及び浦郷地区の中型まき網のマアジ漁獲量は、平年の1/10であった。浜田地区、西郷地区のイカ釣り漁業(属地5トン以上)は、スルメイカ漁獲量が平年の1/10以下であった。石見地区、出雲地区の定置網によるスルメイカ漁獲量は、それぞれ、平年の1/100、1/50であった。	特になし	特になし	特になし

機関名： 山口県水産研究センター

	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
平成21年 10月～12 月	なし	なし	なし	なし